

平成 27 年 2 月 15 日(日)

(第 15 号)

NPO ワンネット FAX 通信

発 信 者 理事長 大内田 治男
FAX 番号 0942-31-5336

「時間的・空間的・相対的」

日野 真郷

第 10 号にて栗林氏が「この世で最も平等なのは時間」と書かれていました。そう言えば飛行機のファーストクラス・エコノミークラスどちらに乗っても料金は違いますが、到着時間は同じです。時間的には平等ということでしょうか。

今回はその時間にも絡んでいますが、私にとって学生時代に習ったことで、今でもただ一つ記憶に残り且つ活用しているものを書かせていただきます。それが表題の「時間的・空間的・相対的」です。

例を挙げてみますと、まず時間的とは、戦前の日本人と現在の日本人は別人種のように変わりますが、これは時間とともに変化してきたもの。時間を飛ばして比較することが間違いのもとですが、往々にしてこの間違いを我々はやっています。時間とともに社会も人も変わっていきます。それを理解しなければ失敗し、取り残されていくこととなります。

次に、空間的とは、「水はただ」の観念の日本と、水は石油より高い中近東。従って「湯水のごとく使う」は、所変われば当然意味も価値も違ってきます。

最後に、相対的とは、背の高い人と低い人、知的な人とそうでない人と、同じ日本人でも兄弟でさえも立つ位置が違えば見方や考え方が違うこととなります。

この言葉は、ローマ法・法哲学の学者で私のゼミの担当教授の口癖で、何か学生が発言すると「それは時間的・・・」、あるときは「空間的に・・・」、そして止めは「相対的に整合性はあるのか」の詰問でした。

この詰問に備えて予習することにより、時間的・空間的・相対的に考慮して対応する習慣を身に付けていきました。

この言葉が頭にあって、いつもそのことを念頭に置きながら物事を考え、あるときは批判・評価するようにして、その後の長い国内外での会社員人生を過ごしてきました。

ものやことに当たっては、これら 3 つの要素を考えながら行動していくことを学びましたが、残念ながらこれ以外の学生時代に習ったことの全てを忘れてしまったようです。というか、これ以外は社会では必要なかった、或いは役に立たなかったということかもしれません。

皆様も、この言葉を参考に、ものごととのとりわけ批判・評価に使われることをお勧めします。

●公証業務相談 担当割り振り

前号「FAX 通信」で「公証業務相談」の日程変更についてお伝えしました。具体的には、現在、毎月第 3 木曜日 13 時～16 時、久留米市役所 6 階、広聴・相談課で行われていますが、4 月から毎月第 3 水曜日 14 時～16 時に変更になるというものです。

今回は、この相談を担当していただく「当番」の 1 年間の割り振りを行いました。ついては、みなさんにお諮りします。ご理解とご協力をお願いします。(敬称略)

4 月 15 日(水) 久保田 寿	5 月 20 日(水) 江口 卓	6 月 17 日(水) 豊福秀次郎
7 月 15 日(水) 熊谷 英之	8 月 19 日(水) 中村 清子	9 月 16 日(水) 宮川 譲
10 月 21 日(水) 古賀 信夫	11 月 18 日(水) 中村 妙子	12 月 16 日(水) 鹿子生盈 代
1 月 20 日(水) 橋口紀代子	2 月 17 日(水) 執行きよみ	3 月 16 日(水) 後藤 由紀

●年金セミナー結果報告

ワンネット主催『老後いきいきセミナー』第 1 回「年金制度と今後の改正点」が、1 月 30 日(金) 14:00～16:00 で開催されました。参加者数は 27 人でした。また、セミナー終了後の個別相談が 3 件ありました。

講師は、ワンネット会員 社会保険労務士の古賀隆広先生。本日のセミナーは年金の知識に関するチェックテストから最新の年金制度情報の解説へと導かれるユニークかつボリューム満点の充実したセミナーでした。

講師の古賀隆広先生、個別相談を受けていただいた大内田先生、執行先生、受付や設営を協力していただいた会員の方々に感謝いたします。

アンケート結果

参加者 27 人中、21 枚を回収しました。回収率 77%

・性別: 男性: 9 人 女性: 12 人

・年代: 30 代; 2 人、40 代; 1 人、50 代; 8 人、60 代; 5 人、70 代; 5 人

50 代～60 代の女性が 61% を占め、これから受給する方に関心が高かったようです。

・セミナーの感想: 「よかった」が 19 人と大好評でした。

・身の回りで不安に思うこと: 相続; 5、介護問題; 8、老後の生活; 13、年金; 5、子供の教育; 2、健康問題; 13

介護、健康を含めて老後の生活に不安を持つ人が多く見受けられます。

・セミナーに関する意見、感想

「年金制度に関する知識が乏しいため、大変勉強になった」、「受給の時期が来たら相談したい」などがありました。

(担当 副理事長 田中 貴教)

●無料相談会 1 月、2 月の報告

1 月の相談会は 1 月 14 日(水)市民活動サポートセンターで開催。村上公証人と 13 人のワンネット会員が対応しました。相談内容は、遺言・相続 4 件、離婚 1 件、その他 3 件(贈与税、終活、預金明細に納得いかない)、合計 8 件でした。参加会員は、鹿子生、中村妙、橋口、熊谷、立山、大内田、神野、松枝、平野、日野、古賀信、後藤、田中(敬称略)でした。

2 月の相談会は 2 月 10 日(火)市民活動サポートセンターで開催。村上公証人と 13 人のワンネット会員が参加しました。内容は、遺言・相続 6 件、成年後見 2 件、離婚 2 件、その他 4 件(相続税 2、家賃滞納、食の 6 次産業化プロデューサー活動)、合計 14 件。参加会員は、田中、宮川、中村妙、立山、松枝、大内田、神野、鹿子生、古賀信、古賀隆、後藤、平野、栗林(敬称略)。

3 月の相談会は、3 月 11 日(水)市民活動サポートセンターで開催します。会員の積極的なご参加を期待します。

●市男女平等推進センターの登録手続き

久留米市男女平等推進センターに昨年 7 月、途中で団体登録していたワンネット。このほど、登録更新の手続きに入りました。許可になれば 27 年 4 月から 5 年間、利用者連絡協議会会員として、学習会や後援会への参加をはじめ他団体との交流、情報提供などの活動に関わります。

他団体との交流・渉外活動は、これからのワンネットにとって重点事項の 1 つと捉え、活動拡大を図っています。また、活動の在り方も、できるだけ個人でなく組織として取り組むことが大事です。今回の男女平等推進センターの会員活動もそのことを踏まえ、橋口紀代子会員、中村妙子会員、立山由喜子会員を中心にグループ活動として取り組むことにしています。多くの会員のご理解と参加を期待します。

3/7(土)、内部研修のご案内

副理事長 栗林 武敏

内部研修の充実は本年度の事業計画の 1 つとしてみなさんに承認いただいた事業です。今回、その 1 回目を次のとおり実施することになりました。そして僭越ですが、栗林が担当します。「釈迦に説法」、大変恐縮ですが、少し説明してご案内いたします。

ワンネットの「無料相談会」は年を経るごとに相談者が増えてきています。それは、相談を受けるみなさんが、相談者の訴えをしっかりと受け止め、対応しているからだといわれます。素人の私も、そう思います。相談者の信頼を得ているからだと思えます。この姿勢を続けてほしいものです。相談者の増加に対応するには、相談を受ける会員の数をもっと増やすことも大事です。また、

いろいろな領域からの参加もほしいところです。遺言・相続についての相談が相変わらずダントツですが、離婚、終活、そして「その他」が増加傾向にあります。

相談の受け方についての試行錯誤も続いています。受付体制の充実、お辞儀やマナーの再認識なども積極的に改善がなされています。そのような謙虚な姿勢が相談者のニーズに応え、信頼につながっているといえます。

それでも、地域社会は複雑化し、市民の相談は多様化するばかりです。そのような変化に対応するため、みなさんの日頃の地道な研鑽に敬意を表し、改めてみんなで協同しながら市民のニーズに応えるというワンネット創立の精神を思い出しながら、内部研修を企画しました。

「相談」について、一緒に考えてみようと思います。よろしくお願いします。

- ★日 時 3月7日(土)15時～17時
- ★会 場 市民活動サポートセンターみんくる会議室
- ★テーマ 「カウンセリングの理論と実践」
(カウンセリング＝相談は、クライアントの役に立つためにあります)
- ★担 当 キャリアカウンセラー 栗林 武敏

休憩室

～「3しやのまち」～

久留米は、古くから「3しやのまち」と言われてきました。それは、医者・芸者・人力車(今は自転車)と3つ並べて有名です。

筑後川の豊かな恵みを受けた筑後平野で営まれる農業の中心として、久留米は栄えてきました。また、久留米は明治時代から軍都としても名をはせ、そこから歓楽地としても栄え、一時期は200人の芸者衆が活躍したといえます。そこで使われたのが人力車。

久留米はゴムの町。倉田雲平が明治6年開業したつちや足袋(→月星化成→ムーンスター)、石橋徳次郎は地下足袋を考案(アサヒゴム→日本ゴム→アサヒコーポレーション)。石橋正二郎は昭和6年、ブリヂストンタイヤを創業(現在ブリヂストン)し、久留米は一躍ゴムの町になります。そして、これらの工場には筑後、佐賀東部から2万人が銀輪を連ねて自転車で通勤しました。

また、この石橋兄弟は昭和3年、九州医学専門学校(現在の久留米大学医学部)を寄付したことが、久留米を日本有数の医の町に育てました。

ちなみに、本文に登場するムーンスターの労働組合は本会会員です。

